

現代に蘇る 天平の豎琴

佐々木冬彦 箏篥コンサート

-「箏篥」とは-
メソポタミア起源の古代アジアの大型ハープ。天平時代にシルクロード経由で奈良に伝来した。原物は破損が激しいが正倉院に2台残されている。平安中期以降演奏されなくなり、復元されるまで千年以上も眠っていた楽器である。

-演奏曲目-

「天国の扉へ」
「ひとであるあかしとして」
「敦煌琵琶」 他



-出演-

くご
佐々木冬彦(ハープ・箏篥)
作曲家・ハープ奏者として幅広く活躍中。また復元された古代の大型ハープ「箏篥」の演奏家としても国内や海外での公演、音楽祭、録音等に数多く出演している。95年福井ハープ音楽賞第2回国際作曲コンクール優秀作曲賞受賞。

ひちりき
中村仁美(箏篥・歌)
雅楽古典、現代作品に積極的に取り組み、箏篥の力強く滑らかな音を生かした演奏を開拓。リサイタルで箏篥曲を委嘱初演するほか、海外の音楽祭にも多数参加。2010年松尾芸能賞新人賞受賞。

はいしょう
笹本武志(排簫ほか)
琴古流尺八家元の家系に育つ。排簫と古代尺八を、製作・演奏・作曲の3方向から四半世紀にわたり研究し、代役のきかないトッププレーヤーとして知られている。

2013年4月13日(土)

13:30~15:00

※開場は開演の30分前です

-入場無料-

於 稲毛海岸教会

千葉市美浜区真砂 1-7-8

TEL 043-277-1781

